

今回の内容：会議情報

会議情報

最近の、消費者安全調査委員会での議論についてお知らせします。

第27回消費者安全調査委員会（平成26年12月19日）

- 家庭用ヒートポンプ給湯機の事案
調査結果の取りまとめを審議しました。
ヒートポンプ給湯機の設置が、健康症状の発生に関連していることを否定できない中で、申出者の方々が訴える症状には日常生活に支障をきたすほどの例もあることから、できるだけリスクを低減する努力をしていくことが必要であると考えました。その上で、リスク低減のための対策、健康症状の発生時の対応について、経済産業大臣、環境大臣等に対して必要な対策をとるよう意見することとしました。
- 子どもによる医薬品誤飲事故
調査の経過報告を審議し、決定しました。
誤飲を防ぐためには、①保護者への注意喚起を通じて、子どもの特性を踏まえた医薬品等の適切な管理を促すこと、さらに、②子どもが薬を手にした場合であっても容易に取り出しにくいよう容器を改良することが必要と考えました。経過報告の段階では、まず、リスクの周知について、厚生労働大臣や消費者庁長官に対して必要な対策をとるよう意見することとし、容器の問題については、今後、調査委員会で検討することとしました。

報告書や経過報告書などは、消費者安全調査委員会のホームページでご覧いただけます。
<http://www.caa.go.jp/csic/action/index5.html>

- 一般の方からいただいた「申出」事案
事務局から、類似事例、制度等の関連情報や専門委員の見解などの情報収集の結果が報告され、その内容に基づき調査委員会で検討した結果、そのうち14件については調査を行わないことになりました。残りの案件（24件）については、引き続き、臨時委員、専門委員等の知見も活用しながら、事務局で丁寧に情報収集を行った上で調査委員会において判断していくこととなります。

部会の動き

- 工学等事故調査部会（12月中旬に開催）
 - ・ エスカレーター事故：事故の状況整理など報告書の取りまとめに向けた議論を行いました。
 - ・ ハンドル形電動車椅子を使用中の事故：製品面での問題や高齢者の特性と事故発生の関連性などを中心とした調査計画について事務局から説明があり、議論をしました。
 - ・ 機械式立体駐車場事故：調査報告書の分析過程の解説素案について議論しました。分析過程の詳細について事故の事例を用いて説明することが機械設備の設計に実際に携わる方や、それを志している大学等で学ぶ方などにとって有益であるとの基本的な考え方に立ち、作業を進めています。委員からは、消費者にとっても有益と考えられることから、ぜひ読んでもらえるようにすべきなどの意見がありました。
- 食品・化学・医学等事故調査部会（12月上旬に開催）
 - ・ 子どもによる医薬品誤飲事故：経過報告案の取りまとめの議論を行いました。
 - ・ 染毛による皮膚障害：事務局から調査の進捗状況や今後の調査計画について報告がありました。